

# トランプ2.0の世界 =不確実性強まる中、日本の対応は？=

**岸田 芳樹** 客員教授  
(時事通信社 国際担当取締役)



2025年10月10日 (金)  
4限目 14:40-16:10  
関西大学 千里山キャンパス  
岩崎記念館 4階 F402

○ 概要

今年1月、アメリカ第一主義を掲げるトランプ第2期政権が発足。第二次世界大戦後にアメリカが主導してきた国際秩序は、大きな転換を迫られている。日本を含む同盟諸国に対しても関税を大幅に引き上げ、戦後の自由貿易体制は大きく揺らぎ、不確実性が高まっている。開発途上国を強力に支援してきたUSAIDを解体し、DEI(多様性、公平性、包摂性)を重視する寛容政策から不寛容政策に舵を切り、国内の分断はさらに深まっている。トランプ2.0が世界に及ぼす影響についても考察する。

○ 略歴

1983年、関西大学法学部卒。同大大学院法学研究科修士課程、ハワイ大学大学院政治学修士課程修了後、1986年に時事通信社入社。90年代はモスクワ特派員としてソ連崩壊、これを受けた新生ロシアの外交・内政、北方領土をめぐる日ロ交渉を取材。2000年代に入ってからはワシントン特派員、ワシントン支局長として、アメリカ大統領選、北朝鮮核問題やイラク戦争を取材した。外信部長などを経て18年から21年まで米国時事通信社長兼ニューヨーク総局長。23年、国際担当取締役に就任。